



コロニアへ行こう

この冊子を作った目的は、日系コロニアの歴史や現状、農業への取り組みを解りやすい形で紹介し、広くコロニアに興味を持ってもらうことである。1908年笠戸丸移民からはじまった日本人移民の歴史は、ブラジルの農業に大きな影響を与え、貢献してきたといわれている。初期移民は、コーヒー農園の労働者として導入されたが、徐々に土地を買い、独立し、農村部や奥地に日系移住地＝コロニアを形成してきた。そうしてコロニアの人たちは、農業を発展させていった。また歴史が進むにつれ農業のみならず、他産業へも進出する者を生み出し、いまやブラジルの日系人人口は150万人ともいわれるまでに成長した。日系移民は農業からはじまり、ブラジルに広く裾野を広げて定着し、様々な分野で活躍しているのである。

しかしながら、この日系社会の原点ともいえる各地の農村コロニアはいまどうなっているのだろうか。ブラジルの農業を支えてきたコロニアは、どんな農業を行っているのか、そしてどういった歴史を経験してきたのか。そうしたことを100周年を期に振り返ってみた。

各地のコロニアでは、あるところでは果実生産を伸ばし、柿やブドウ、リンゴなどブラジルではほとんど生産されていなかったものを大量に生産するようになった。さらにはデコボンといったような高級果実を生産したり、ランなどの高級な花卉類、また大規模な穀類生産地帯に成長したところもある。こうした農業の現状を知ってもらい、ブラジル国内外に広く流通する農産物に、日系農家が深く関わっていることを知っていただきたい。

そしてその現場であるコロニアは、日系人独自の技術や文化、思想を持ち、そしてブラジル文化と融合しながら町や農業を発展させてきたと思う。これはコロニアの建築物や街並みにも表れている。なかには日系移民の歴史を伝える博物館を持つ町もある。

こうしたコロニアへ是非とも足を運んでいただきたい。コロニアの田園風景や街並みのなかに昔の日本人の足跡を確認していただきたい。そうすれば日本人がこの国でどのように町をつくってきたのか、どのように農業を育ててきたのかを思い描くことができるだろう。そしてその成長の果実である新鮮で瑞々しい農産物を、コロニアで手にしていただきたいのである。